

令和7年度「学芸員専修コース」共同企画展示

Insect Nets

- 実物とデジタルが語る東大150年の軌跡 -

アゲハ
s. imperialis

サナギの脱け殻

♀
Aug. 23, 86

1986年 6月 14日

白水 隆会長あてにダージリンから

発見成功の電報

TELEGRAM

JPJX CO INCX 024

123 (国本)

TRC858 KJJ208

DARJEELING 24

DR T SHIROVZU 610/23 FUJIGAOKA HAM

NISHIKU FUKUOKA JAPAN

JUNE 14 TENGL HATCHED BEGAN EATING

KS



2025年 11/17 (月) — 2026年 1/30 (金)



東京大学総合研究博物館

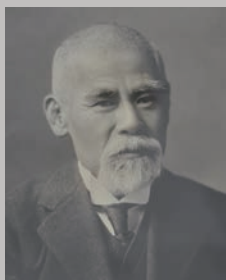
The University Museum, The University of Tokyo

東京大学150周年・総合研究博物館30周年記念イベント



明治から昭和にかけて活躍した 昆虫学者のコレクション

本企画展は明治～昭和にかけて活躍した昆虫学者4名がネット（捕虫網）で集めたコレクションとその軌跡に焦点を当てる。佐々木忠次郎はカイコの病虫害の研究により養蚕業の進展に貢献した。セミの分類・生態の研究を行った加藤正世は、昆虫学の普及でもその名が知られる。一方、五十嵐邁はダージリンでの調査による珍種テングアゲハの幼生期解明など、アジア産チョウ類に関する業績を数多く残した。人類学者としても著名な尾本恵市は、特にウスバシロチョウ亜科の系統分類において分子進化学の手法を取り入れたことで知られる。それぞれ異なる時期に形づくられ、東京大学総合研究博物館に収められたかれらのコレクションは、明治から今日に至るまでの150年の昆虫学の歴史を物語る。



佐々木 忠次郎



加藤 正世



五十嵐 邁



尾本 恵市

デジタル技術を使った 昆虫標本の新しい共有のかたち

一方、昆虫の収集と標本作製の手法は過去から大きく変わらず、昆虫コレクションは時代を超えて普遍的な存在といえる。発足30周年を迎える大学博物館でも、昆虫の姿をタイムカプセルとして未来へ伝えようとする意志は揺るぎない。本展では、そうした性格を踏まえ、収蔵標本とその3Dデジタル画像を併せて紹介した。

会場の四方にはコレクションが、展示ケースには厳選標本が、会場中央には3D像を搭載したタブレット端末が並ぶ。タッチ操作で全方向に動かせる3D像は、標本の表裏だけでなく翅や脚の細部まで観察でき、その造形を多角的にとらえる契機となるだろう。3D像と実物標本を同時に展示することで、観覧者自らが隅々まで比較できる。古来より受け継がれた標本とそれらから成る電子イメージは、自然界から標本をつくるまでの過程に介在するネットのように、実物と画像を情報空間へとつなぎ合わせている。



3Dモデル化した昆虫標本

【関連イベント講演会】 12月13日（土）14:00～15:00 本館7階ミュージズホール
「昆虫学史を築いた4人の昆虫学者とそのコレクションー実物標本と3D画像を融合した共同企画展示からー」
矢後 勝也（東京大学総合研究博物館・講師）

東京大学総合研究博物館

東京都文京区本郷7-3-1（東京大学本郷キャンパス内）

開館時間：10時～17時（ただし入場は16時30分まで）／休館日：土曜・日曜・祝日・12月28日～1月4日

入場料：無料／ハローダイヤル：03 5777 8600

アクセス：都営大江戸線「本郷三丁目」駅より徒歩3分、東京メトロ丸ノ内線「本郷三丁目」駅より徒歩6分

令和7年度「学芸員専修コース」

展示制作 谷尾 崇（リーダー）、半田宏伸（サブリーダー）、後藤朋美、沈 宗論、申 垂凡、竹内健心、塚田小扶里、辻 泰岳、細田 航、牧田 晋、山本理香（フライヤーデザイン）、渡辺修二

制作指揮 矢後勝也、佐々木猛智／講師 洪 恒夫、遠藤秀紀、関岡裕之、吉田真司、橋本憲明、池田 博、三河内 岳

映像制作補助 橋本憲明／協力 伊藤（紙屋）勇人、勝山礼一郎、小宮山知佳

東京大学150周年・総合研究博物館30周年記念イベント

